

流行ニュース

<鳥インフルエンザ、インドネシア（更新¹）>

2006年6月第一週に、インドネシア保健省とWHOは、H5N1型鳥インフルエンザ感染が確定した患者の看護に参与していた4人の看護師のインフルエンザ様疾患を監視していた。

検査の結果、現在4人の看護師全員からH5N1型鳥インフルエンザの感染が確認のうえ除外された。

そのうち2名の看護師は10歳の女兒とその兄である18歳の男児で、5月22日にBandung（ジャワ西部）で入院し翌日死亡した兄妹を看護した。2名の看護師の検査結果は、H5N1型鳥インフルエンザ感染に対し陰性であった。1人の看護師は現在インドネシア中に広く蔓延している季節性インフルエンザA（H1N1）型ウイルスに感染していることが明らかになった。もう一人の看護師は軽度で一時的な症状だけを経験したが、予防措置として緊急に検査が行われた。彼女の検査結果もまたH5N1型鳥インフルエンザ感染に対し陰性であった。

残りの2名の看護師は、Medan（スマトラ北部）の病院に勤務しており、Karo地区のKubu Simbelang村の大家族のH5N1型鳥インフルエンザ感染を看護していた。一人の看護師は、34歳女性で、軽度の症状だけを経験し、その後の検査ではH5N1型鳥インフルエンザ感染に対し陰性であった。もう一人の看護師は、42歳女性で、6月1日にインフルエンザ様疾患が出現した。6月6日の検査結果では、2名ともH5N1型鳥インフルエンザ感染に対し陰性であった。

この看護師達のインフルエンザ様疾患に対する調査の速さと徹底振りは、インドネシア保健省のより高められた関心を示した。4名の看護師全員の検査結果が陰性であったことは、現在効率的または持続的にウイルスが広がっていないことで、安心させる根拠を提供するものである。

参照¹：No. 19、2006、p. 189

<急性弛緩性麻痺（AFP）サーベイランス実施結果とポリオ罹患率、2005-2006>（WER参照）

（尾崎明子、松田宣子、法橋尚宏）